

意外と知らない和製外来語

国語班：加藤 信之助、坂本 由太郎、八木 健斗
山田 寛斗、北中 颯人、町田 悠樹

1. はじめに

私たちは日常生活の中でよく使われている和製外来語（日本で作られた、海外では通用しないカタカナ言葉）について興味を持ち、文献をもとにしたアンケートを校内で実施することにより、「日本人は和製外来語を外来語だと認識して使ってしまう。」という仮説が正しいかを検証、また、そのアンケート結果や文献をもとにして日本における和製外来語の広まりについて研究を進めました。

2. 研究内容

(1) 高津高校1年生4クラス、2年生5クラスを対象にアンケートを実施し、どのような和製外来語が外来語だと誤認されやすいかを調べる。

[アンケート内容]

班員で、文献を参考に外来語だと思われやすい和製外来語を5個選出し、先入観などをなくすために相談などをしないように指示し、「和製外来語だと思うもの」を選んでもらった。選出した和製外来語は、「キャッチボール」「タオルケット」「バックネット」「シュークリーム」「ジーパン」の五つである。

(2) アンケートの結果、最も票数が多かった「キャッチボール」、次いで多かった「バックネット」を含め、和製外来語辞典に記されていた「ネイティブには通じない和製外来語」を229個選び、4つの型に分類し共通点や由来を調べた。分類した4つの型は、以下のとおりである。

①簡略短縮型：元になった外来語を日本語的な解釈で使いはじめ、それが広まるとともに、省略形をそのまま言葉としたもの。

(例)「テロ」→「terrorism」の省略形

②他語に置き換え型：本来の意味とは異なる意味の言葉を用いて表わされている和製外来語。

(例)「カンニング」→英語では不正行為全般を指し、「テストで人の回答を盗み見する」という意味はない

③元々の用語をカタカナ読み型：日本に伝わった外来語が、発音の響きをもとにしてカタカナで表されたもの。

(例)「シチュー」→意味はそのままだが、英語の「stew」とは発音が異なる

④造語型：元々ある言葉をいくつか合わせることによって、英語には存在しない言葉になったもの。

(例)「ハローワーク」→職業安定所。愛称は募集されたものから決定された。職との出会いを意味する「ハロー」と仕事を意味する「ワーク」が組み合わせられている

3. 結果・考察

[結果]

- ・ 229個を分類した結果、「他語に置き換え型」が最も多く81個、「簡略短縮型」が56個、「造語型」が78個、「元々の用語をカタカナ読み型」が13個となった。
- ・ 現在日常で使われている言葉のうち5～10%が外来語であり、その多くが和製外来語である。
- ・ 通行人の目に入りやすいように作られている広告や表示では、利用者の大多数が日本人であるという前提のもと、伝わりやすくわかりやすい、インパクトのある和製外来語が多く使用される傾向にある。

[考察]

- ・ 和製外来語は西欧の文化を日本にそのまま取り入れたのではなく、日本人が使いやすいよう、伝えやすいようにするために日本人の考えの影響を色濃く受けた言葉であると考えられる。
- ・ シャーペンなど、一部の和製外来語は、日本語では説明が長くなる単語を短く、手軽に伝えることができる。
- ・ 日本人がマスメディアを多く利用するようになったことが、和製外来語の広がりを後押ししたと考えられる。
- ・ グローバル化が進む中、日本人にしか通じない和製外来語を外国人に使うと、会話が成立せずにコミュニケーションに支障を及ぼすため、もともとなった言葉や、言語意外の表現方法に日ごろから親しんでおく必要がある。

4. 参考文献

- ・ 和製英語辞典：亀田尚己・青柳由紀江・J. M. クリスチャンセン共著(丸善出版)
- ・ 和製英語と日本人：ジェームズ・スタンロー著 吉田正紀・加藤将史訳(新泉社)
- ・ ダニエル・カールのジャパングリッシュ DAMEDASU講座：ダニエル・カール監修(東峰書房)